

2024年度第2四半期決算説明会

2024年11月25日

石原産業(株)

URL <https://www.iskweb.co.jp>

<お問い合わせ先>

取締役専務執行役員

財務本部長 川添 泰伸

1. トピックス

2. 2024年度 第2四半期実績

3. 2024年度 業績予想

4. 事業別 業績概要

5. 付属資料

トピックス

社長ごあいさつ

代表取締役社長 大久保 浩

Vision 2030 目標実現への道程

独創・加速・グローバル。
化学の力で暮らしを変える。

Stage I 2023 年度実績

- 営業利益：114億円
(売上高：1,384億円)
- ROE：8%
- 連結配当性向：33%

Stage II 目標

- 営業利益：190億円以上
(想定売上高：1,600億円以上)
- ROE：10%以上
- 連結配当性向：40%

Vision 2030 Stage I
FY2021-2023

Vision 2030 Stage II
FY2024-2026

Vision 2030 Stage III
FY2027-2029

Vision 2030 目標

- 営業利益：240億円
(想定売上高：1,800億円以上)
- ROE：10%以上の安定確保

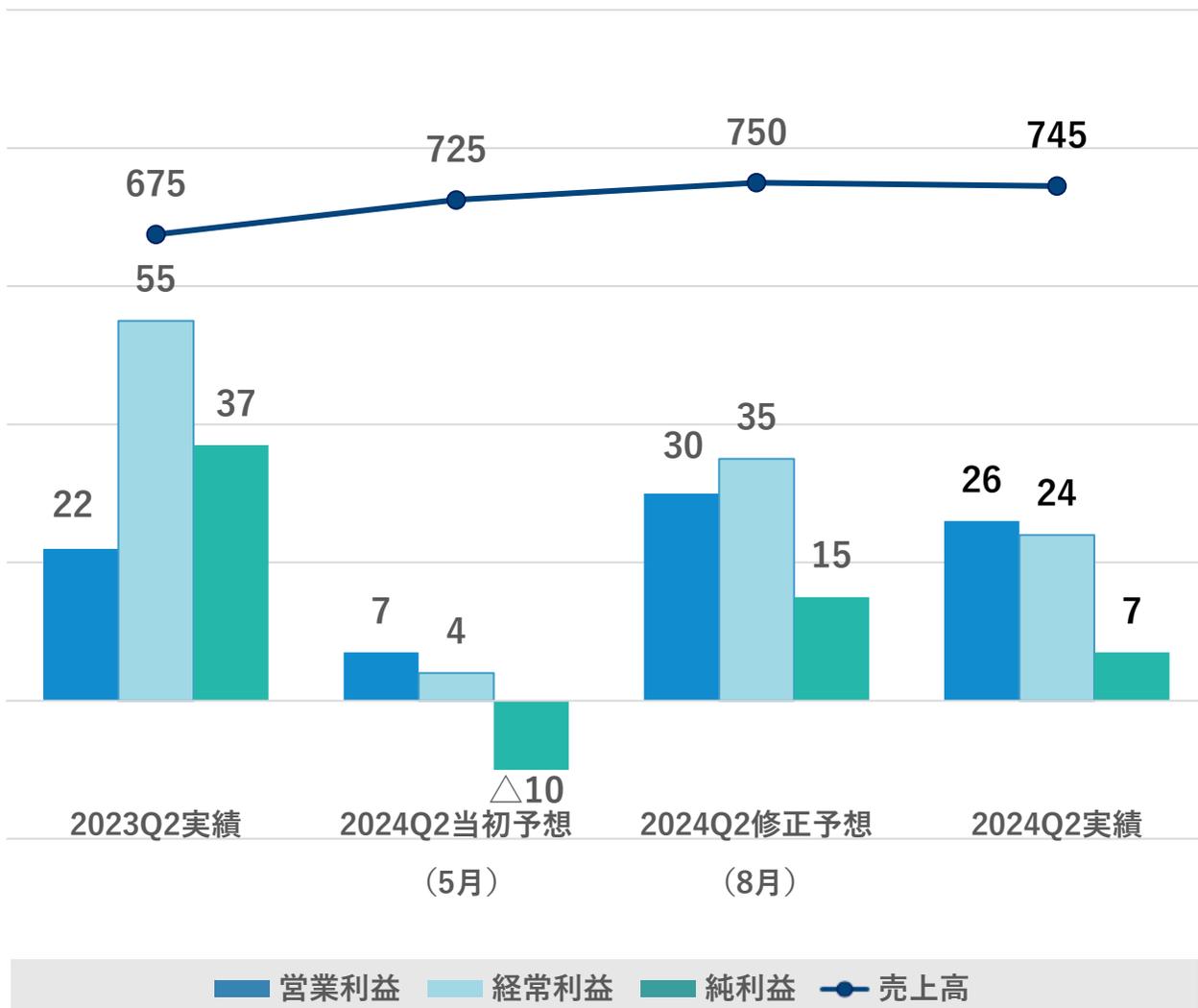
さらなる企業価値の向上

技術開発での社会貢献

企業価値の向上

2024年度 第2四半期連結業績

(億円)



● 売上高 **745 億円**
(前年同期比 69 億円増)

■ 営業利益 **26 億円**
(前年同期比 3 億円増)

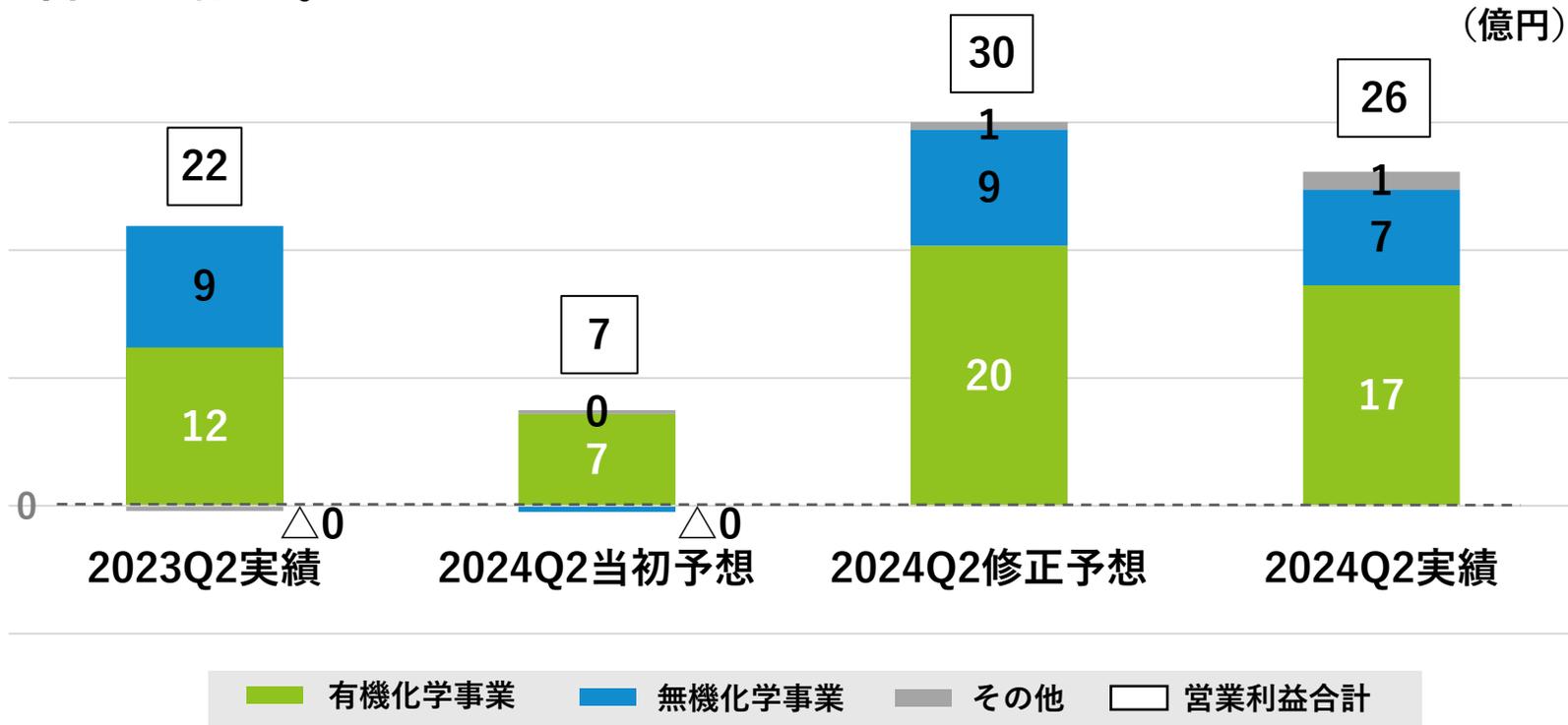
■ 経常利益 **24 億円**
(前年同期比 30 億円減)

■ 純利益 **7 億円**
(前年同期比 30 億円減)

為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2023Q2実績	141.2	151.2
2024Q2当初予想	148.0	158.0
2024Q2修正予想	146.0	160.5
2024Q2実績	152.4	166.1

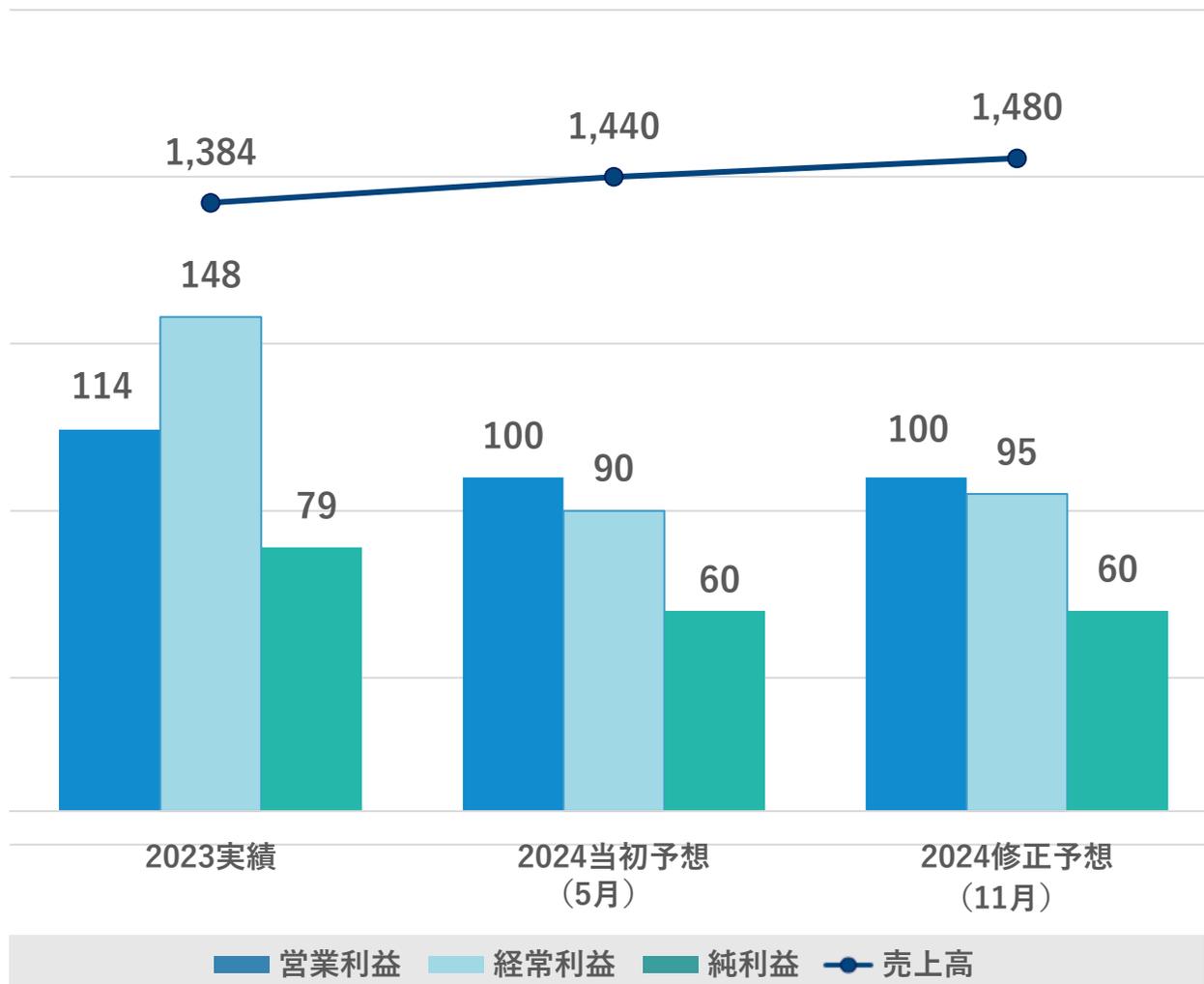
2024年度 第2四半期事業別営業利益

- ◆有機化学事業は、農薬が欧州において湿潤な天候により殺菌剤の需要が増加したことや、殺虫剤の需要も堅調に推移。ブラジルでは殺菌剤が復調の兆し。
- ◆無機化学事業は、機能性材料の電子部品材料が、海外からの引き合いが強い。



2024年度 通期連結業績予想

(億円)

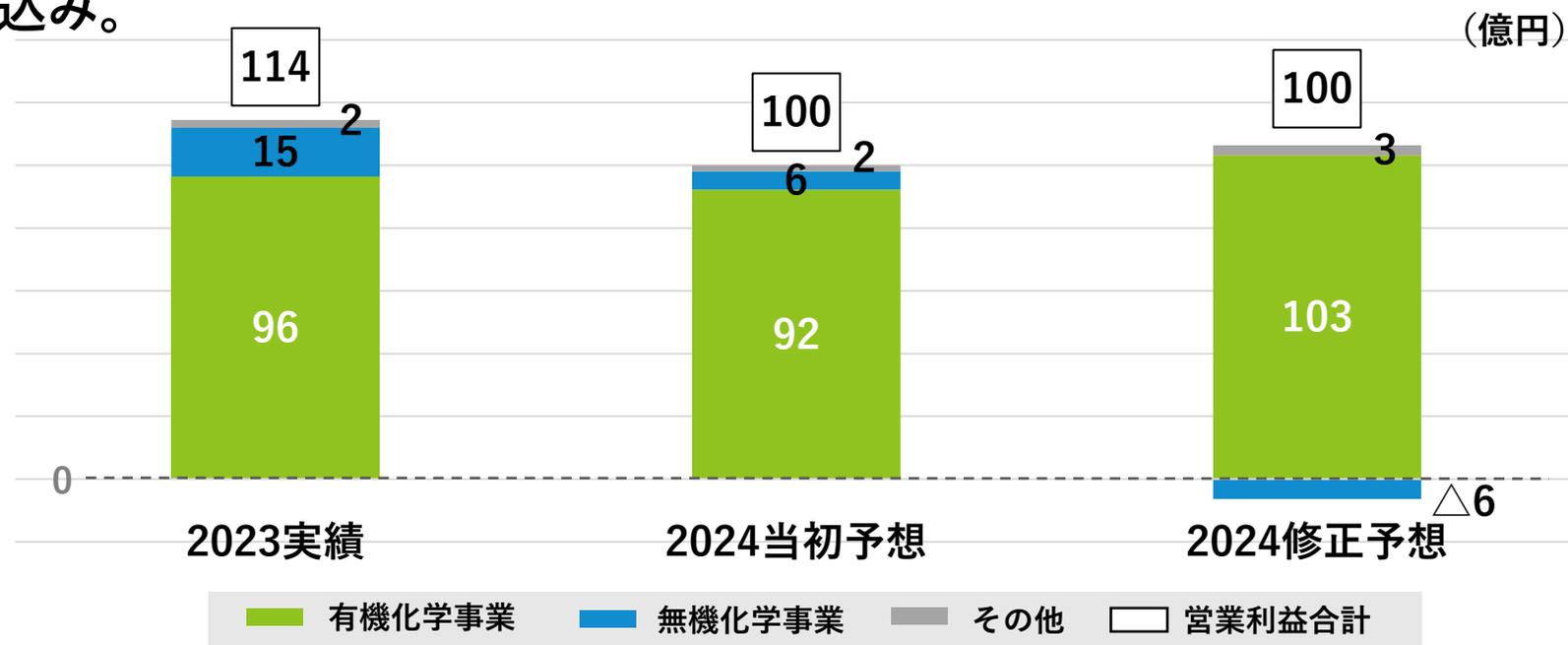


◆ 5月の当初予想と比較して、有機化学事業と無機化学事業の業績のバランスに変動はあるものの、全体として売上高は微増、利益はほとんど変わらない見通し。

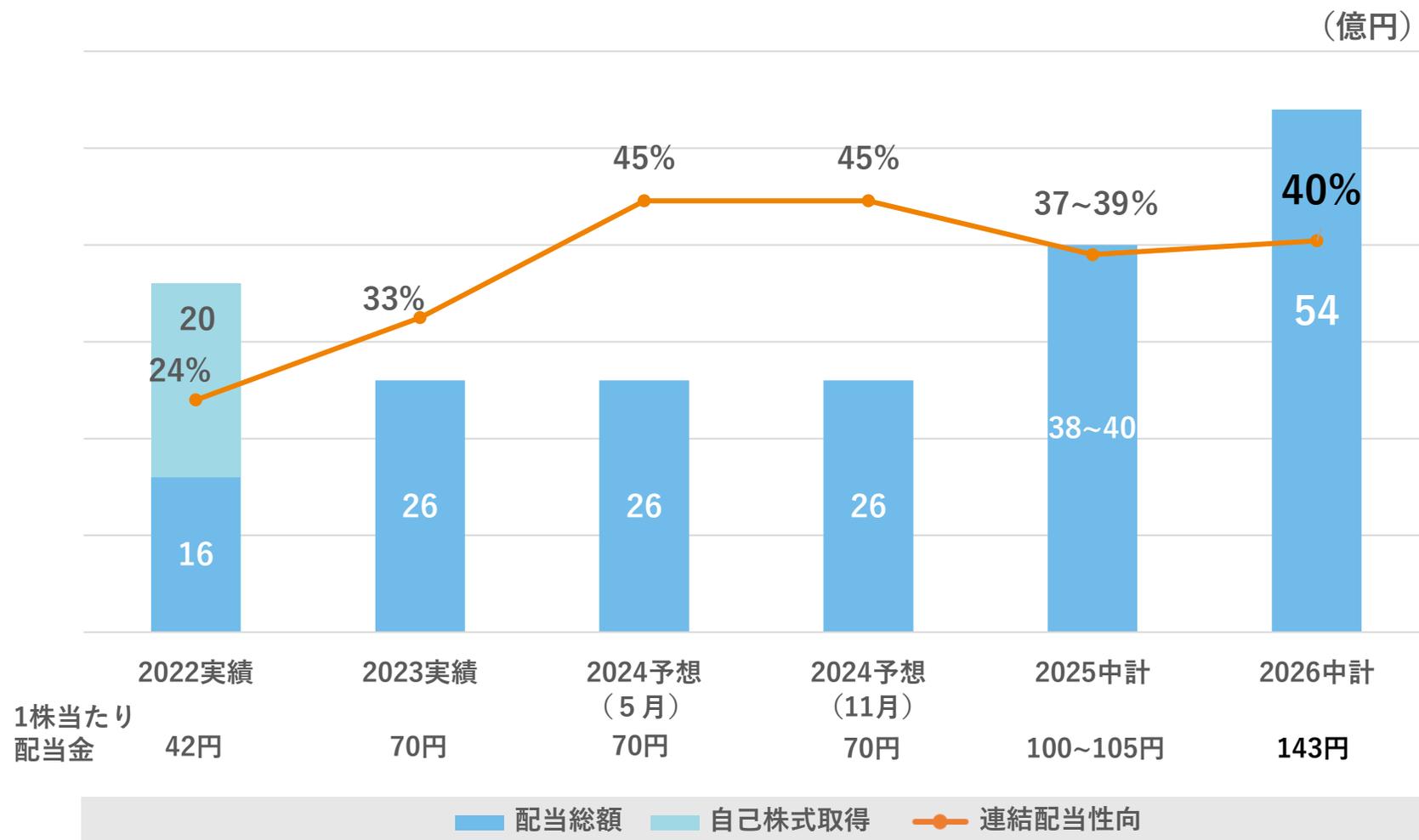
為替レート	(円/USD)	(円/EUR)
2023実績	145.6	157.0
2024当初予想	148.0	158.0
2024修正予想	150.2	162.0

2024年度 通期業績予想事業別営業利益

- ◆有機化学事業は、農薬が引き続き欧州において殺菌剤と殺虫剤が堅調に推移。成長戦略剤では、除草剤トルピラレートが米州で力強く伸びる見通し。
- ◆無機化学事業は、機能性材料の電子部品材料において、海外需要が引き続き好調。国内販売は緩やかに回復する見通し。中長期的な需要予測にも変わりはない。酸化チタンは当初の想定より市況が悪化する見込み。



Vision 2030 Stage II 株主還元方針



株主還元方針

- 業績動向、財務状況、将来の事業展開に必要な内部留保の充実等を総合的に勘案して業績に応じた安定的な配当の継続に努める。
- ①
 - ② 最終年度（2026年度）に向けて連結配当性向40%を目標とする。
 - ③ 機動的な自社株買いを行う。

PBR1倍以上に向けた取り組み

- ◆ 農薬/成長戦略剤の拡販
- ◆ 「ひょうご小野研究センター」の2025年度の稼働
- ◆ 動物用医薬品/パノクエルの国内外での拡販
- ◆ 無機化学事業構造改革の実行
- ◆ 「資本コスト経営推進プロジェクト」の立ち上げ

2024年度 第2四半期実績

為替レート	2023 第2四半期	2024 第2四半期
(円/USD)	141.2	152.4
(円/EUR)	151.2	166.1

2024年度 第2四半期実績

- ◆農薬が欧州で殺菌剤や殺虫剤が堅調に推移するなど、営業利益は増加。
- ◆第2四半期末にかけて円高が進んだことで、為替差損11億円を計上し、経常利益、当期純利益は減少。

(億円)

	2023 第2四半期	2024 第2四半期	増減	2024 第2四半期予想 (2024年8月)	差異
売上高	675	745	69	750	△4
営業利益	22	26	3	30	△3
経常利益	55	24	△30	35	△10
純利益	37	7	△30	15	△7

2024年度 第2四半期（事業別売上高・営業利益）

<有機化学事業>

- ◆ 農薬は欧州で湿潤な天候により殺菌剤の需要が増加し、殺虫剤も堅調に推移。ブラジルでは、殺菌剤がジェネリック品との競争が激化しているものの、在庫調整が一服し、緩やかに回復。
- ◆ 動物用医薬品などのヘルスケア事業は前期を下回る売上高となった。

<無機化学事業>

- ◆ 機能性材料は、電子部品材料の国内販売は低調だったが、海外販売はアジア向けが好調。導電性材料は自動車向けが不振。
- ◆ 酸化チタンは国内外で需要が低迷したが、アジア向けの拡販実施などで、売上は増加。

(億円)

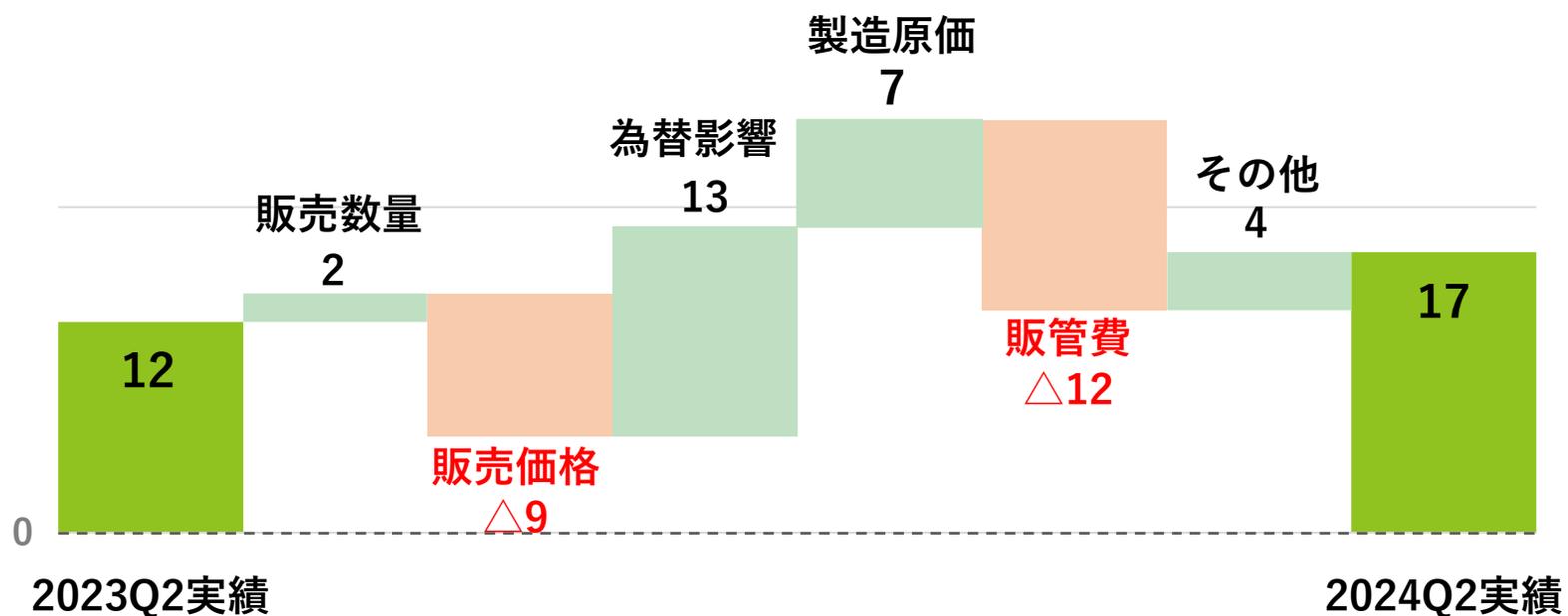
		2023 第2四半期	2024 第2四半期	増減
有機化学事業	売上高	332	362	30
	営業利益	12	17	4
無機化学事業	売上高	328	360	31
	営業利益	9	7	△2
その他	売上高	14	22	7
	営業利益	△0	1	1
合計	売上高	675	745	69
	営業利益	22	26	3

有機化学事業 営業利益増減要因



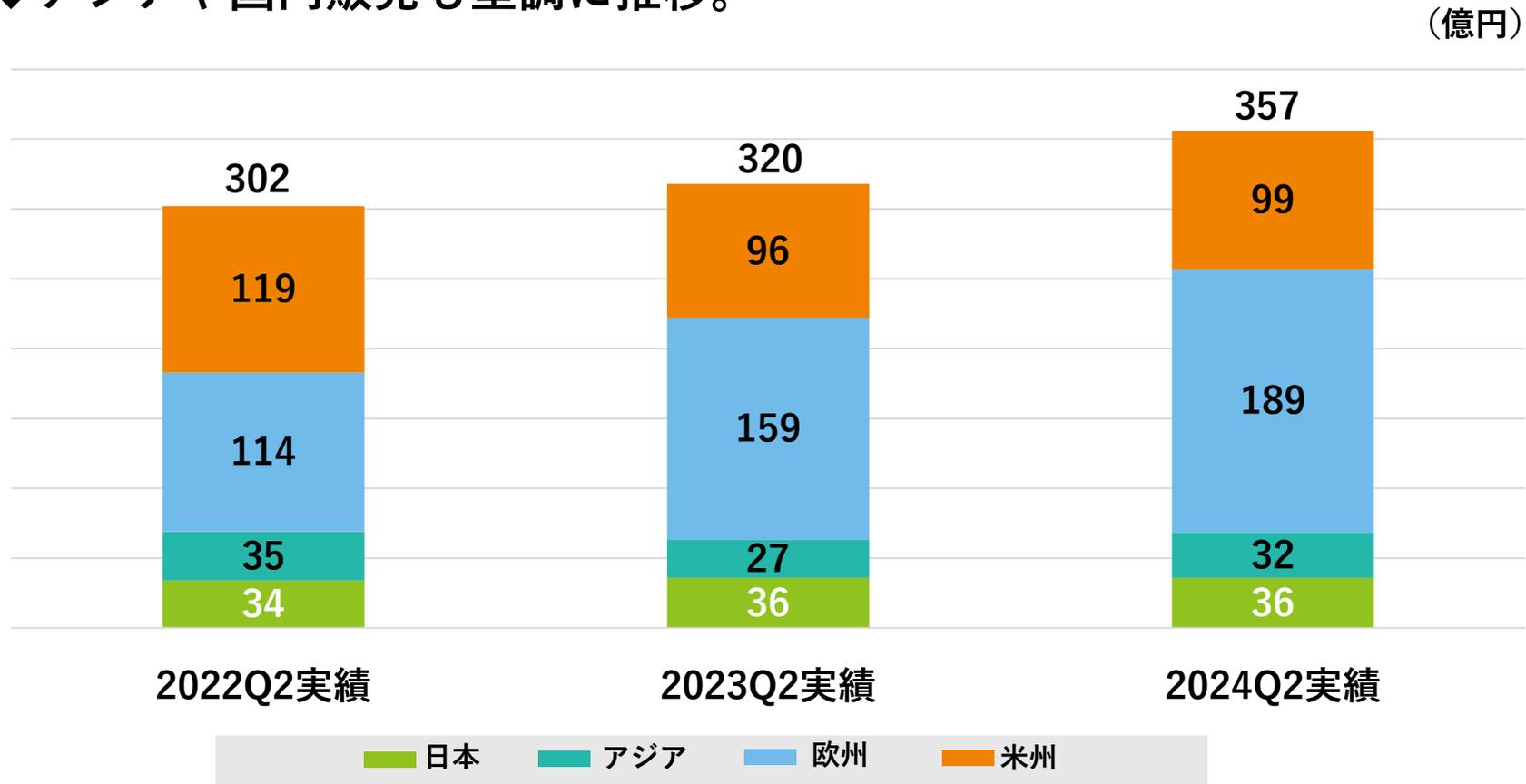
- ◆欧州で殺菌剤の需要が増加、殺虫剤も堅調に推移。為替円安は追い風となったものの、ジェネリック品対策で販売価格は低下。
- ◆研究開発費等が増加したものの、増収効果や製造原価の改善により増益。

(億円)



農薬 地域別販売実績

- ◆欧州では湿潤な天候により、殺菌剤が増加。また殺虫剤も堅調に推移。米州では、北米で除草剤が在庫調整の影響で減収となったものの、ブラジルで殺菌剤の需要が緩やかに回復。
- ◆アジアや国内販売も堅調に推移。

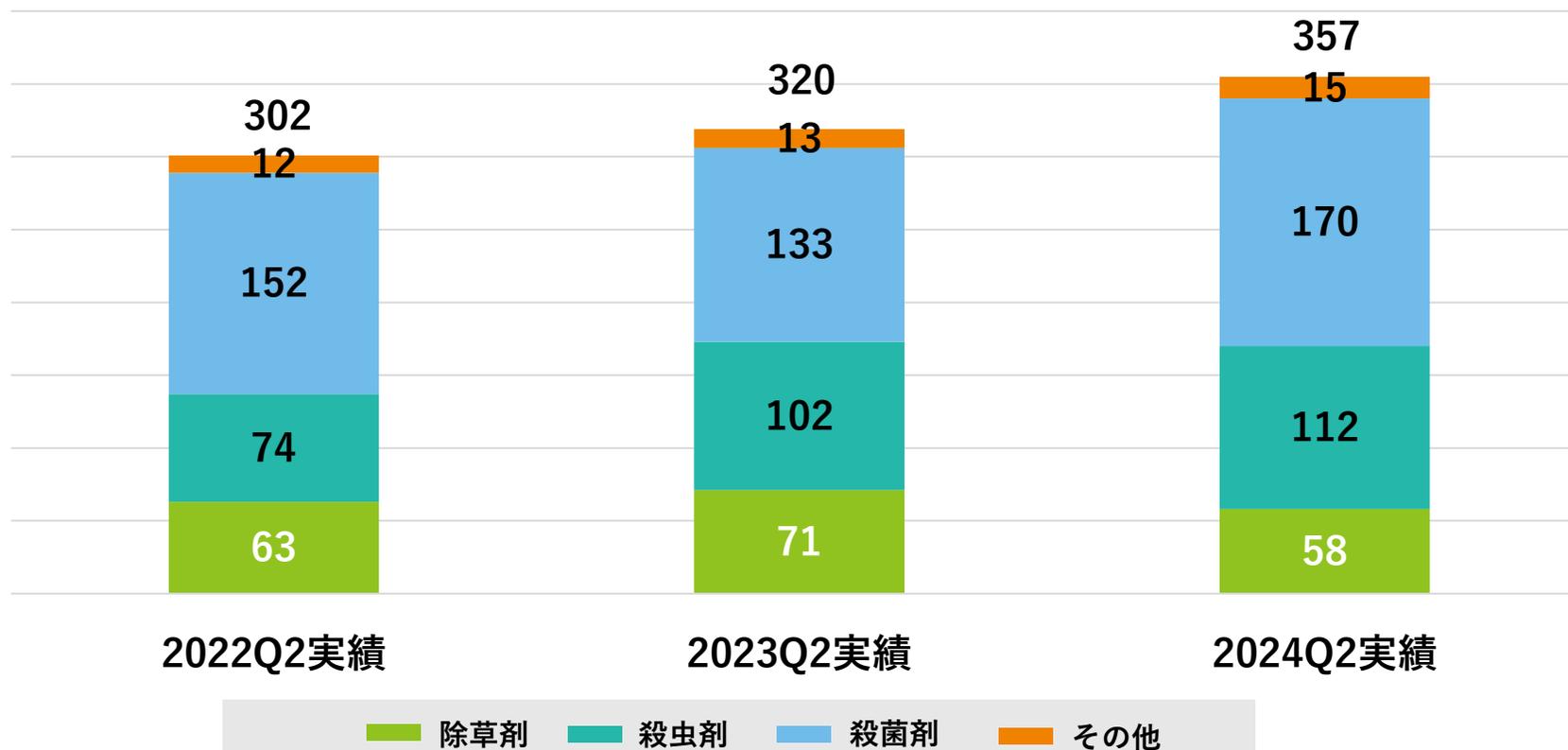


※アジアには大洋州を含む。

農薬 用途別販売実績



(億円)

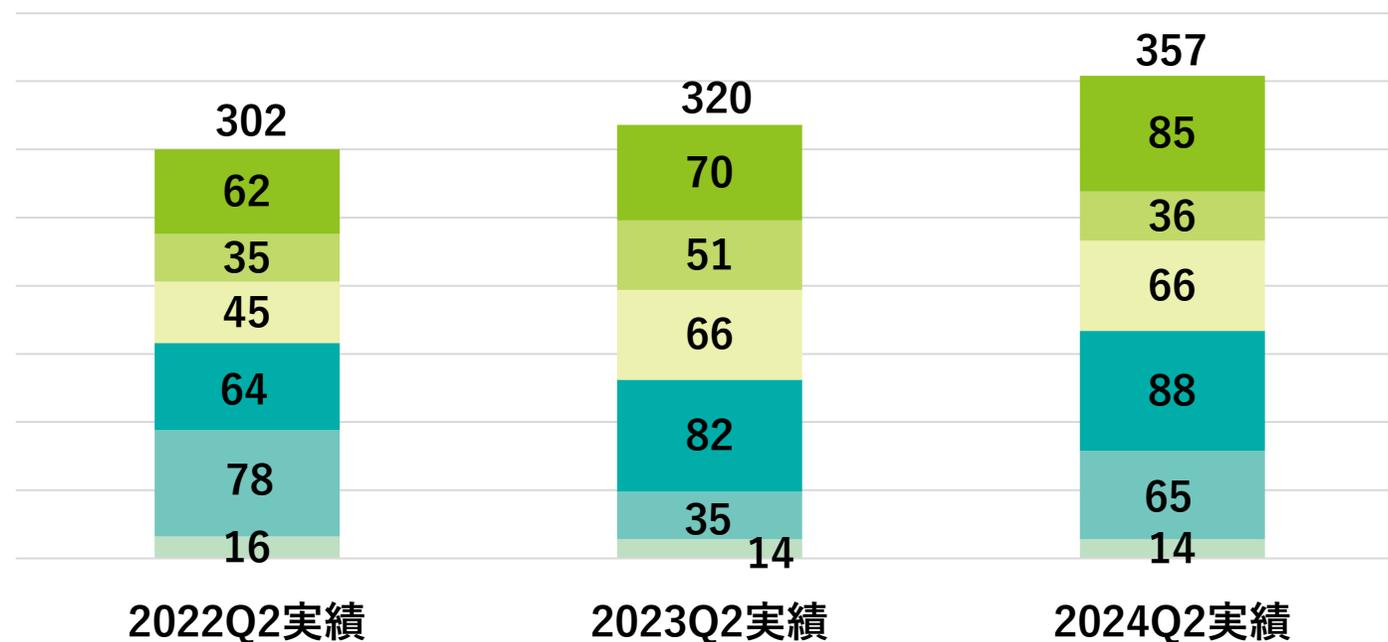


農薬 剤別販売実績



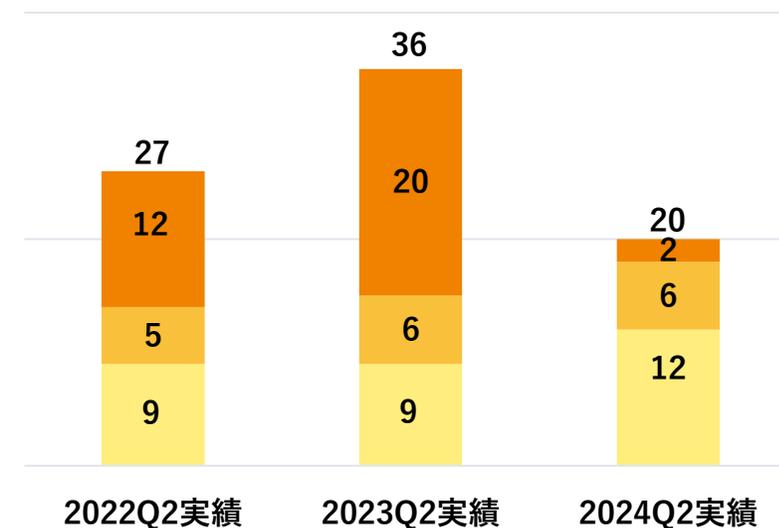
- ◆殺菌剤シアゾファミドは欧州で湿潤な天候により需要が増加。
- ◆殺菌剤フルアジナムはブラジルで回復の兆しを見せる。
- ◆成長戦略3剤は除草剤チアフェナシルが在庫調整のため大幅減。

(億円)



成長戦略3剤

(億円)

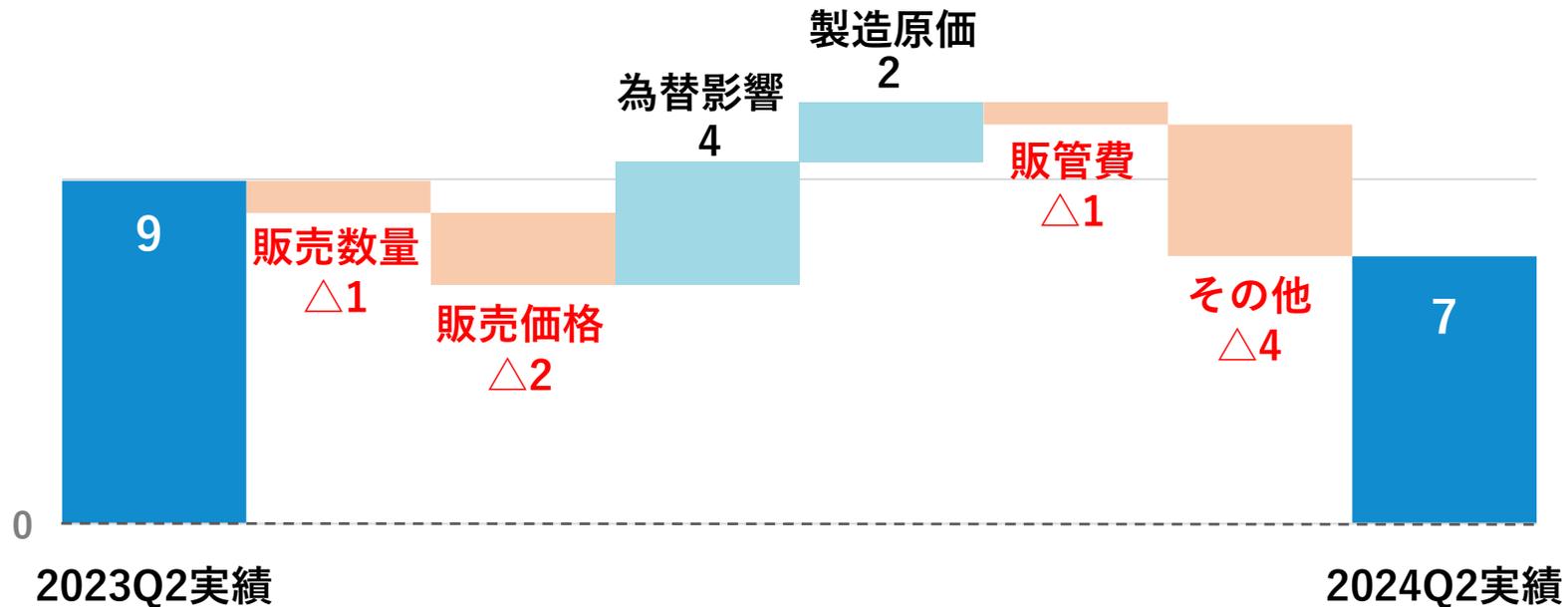


トルピラレート シクラニリプロール
チアフェナシル

無機化学事業 営業利益増減要因

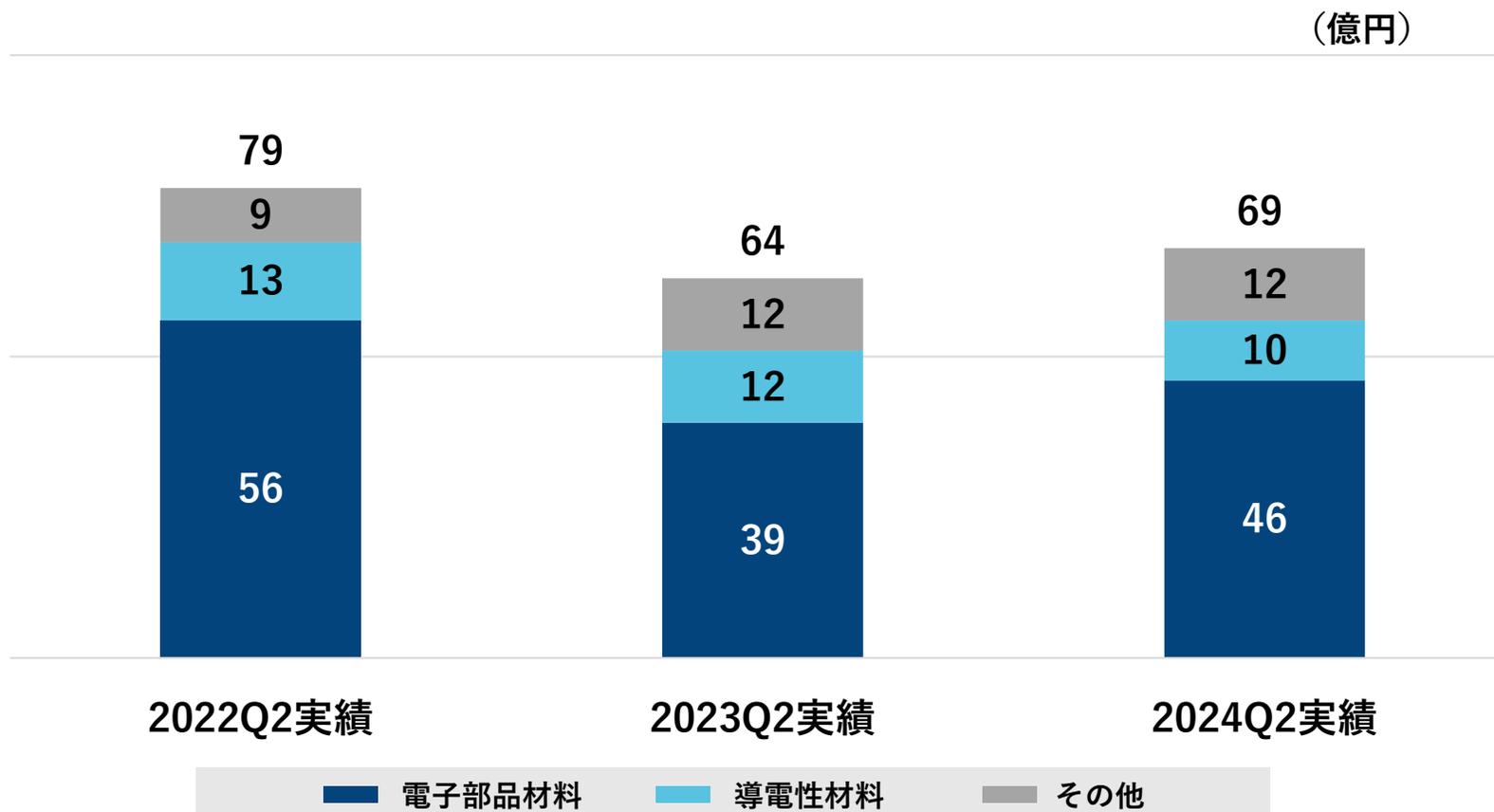
- ◆アジア向けの拡販実施などにより、販売価格が下がる。
- ◆8月以降、安価な中国品の流入により海外市況が悪化。

(億円)



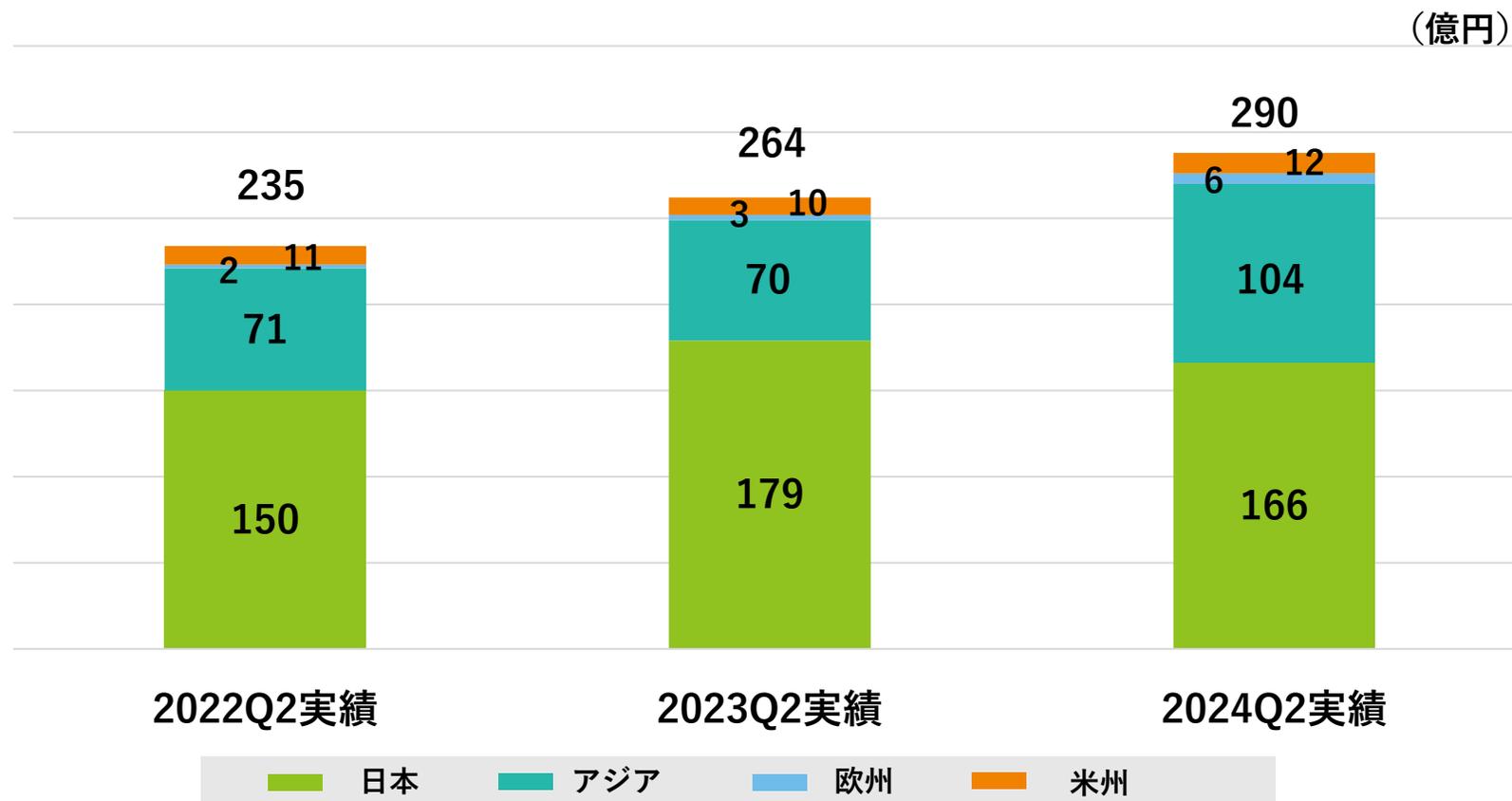
機能性材料 材料別販売実績

◆電子部品材料のアジア向けが需要増加。



酸化チタン 地域別販売実績

◆国内は建築用途向けなどを中心に需要が低迷、アジアでも市況低迷が継続。在庫圧縮のため、アジア向け拡販実施により輸出は伸びる。



営業外損益・特別損益

◆期末にかけて円高が進み、為替差損11億円を計上。

<営業外損益>

(億円)

科目	2023 第2四半期	2024 第2四半期	増減
金融収支	△0	△0	△0
為替差損益	24	△11	△35
持分法利益	8	12	3
その他	△0	△1	△1
合計	32	△1	△34

<特別損益>

(億円)

科目	2023 第2四半期	2024 第2四半期	増減
固定資産処分損	△2	△1	0
その他	0	0	△0
合計	△2	△1	0

2024年度 業績予想

為替レート	2023 実績	2024 修正予想	2024 当初予想
(円/USD)	145.6	150.2	148.0
(円/EUR)	157.0	162.0	158.0

2024年度 業績予想

◆ 5月の当初予想と比較して、有機化学事業と無機化学事業の業績のバランスに変動はあるものの、全体として売上高は微増、各段階利益もほとんど変わらない見通し。

(億円)

	2023 実績	2024 修正予想	増減	2024 当初予想 (2024年5月)	差異
売上高	1,384	1,480	95	1,440	40
営業利益	114	100	△14	100	—
経常利益	148	95	△53	90	5
純利益	79	60	△19	60	—

2024年度 業績予想（事業別売上高・営業利益）

（億円）

<有機化学事業>

- ◆ 農薬が引き続き欧州で殺菌剤と殺虫剤が堅調に推移する見通し。
- ◆ 米州では成長戦略剤の除草剤トルピラレートが伸長。
- ◆ 製造コストの改善も寄与し、増益の見込み。

<無機化学事業>

- ◆ 機能性材料の電子部品材料は、アジア向け販売が好調。一方、国内販売は緩やかに回復する見通し。
- ◆ 酸化チタンは国内外で市況が低迷。また安価な中国品がアジア市場に流入し、収益が悪化。

		2023 実績	2024 修正予想	増減	2024 当初予想	差異
有機化学事業	売上高	671	699	27	651	47
	営業利益	96	103	6	92	11
無機化学事業	売上高	680	745	65	756	△10
	営業利益	15	△6	△21	6	△12
その他	売上高	32	36	3	32	3
	営業利益	2	3	0	2	1
合計	売上高	1,384	1,480	95	1,440	40
	営業利益	114	100	△14	100	—

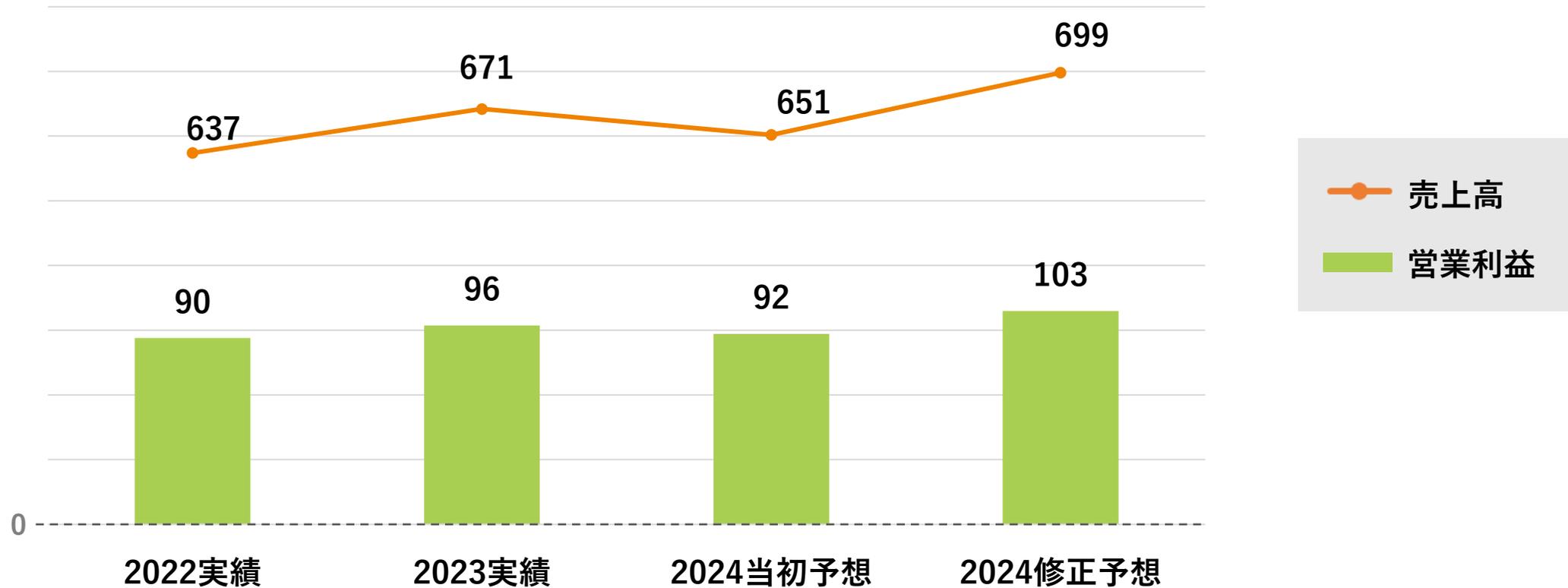
	2022 実績	2023 実績	2024 修正予想	2024 当初予想
1株当たり当期純利益（円）	175.7	209.2	157.0	157.1
自己資本利益率（ROE）	7.3%	7.9%	5.5%	5.6%
年間配当金（円/株）	42	70	70	70
配当性向	23.9%	33.4%	44.6%	44.6%
総資産営業利益率（ROA）	4.5%	5.4%	4.4%	4.4%
売上高営業利益率	6.6%	8.3%	6.8%	6.9%
自己資本比率	48.3%	47.3%	48.7%	47.9%

事業別 業績概要

有機化学事業 業績計画

- ◆ 欧州等で農薬が引き続き堅調に推移。
- ◆ 研究開発費等の経費増加が利益を圧迫するも、増収効果などで増益。

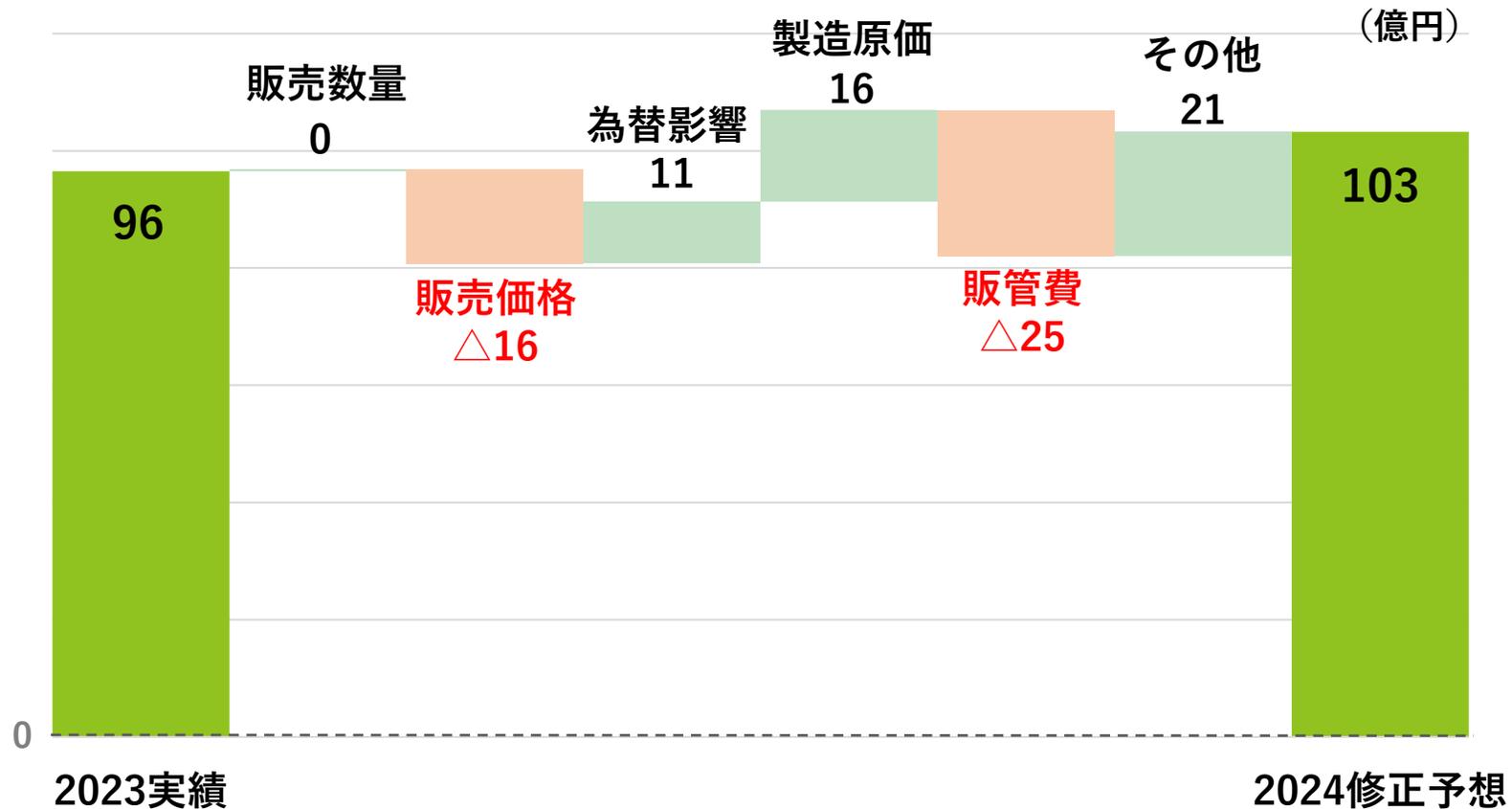
(億円)



有機化学事業 営業利益増減要因

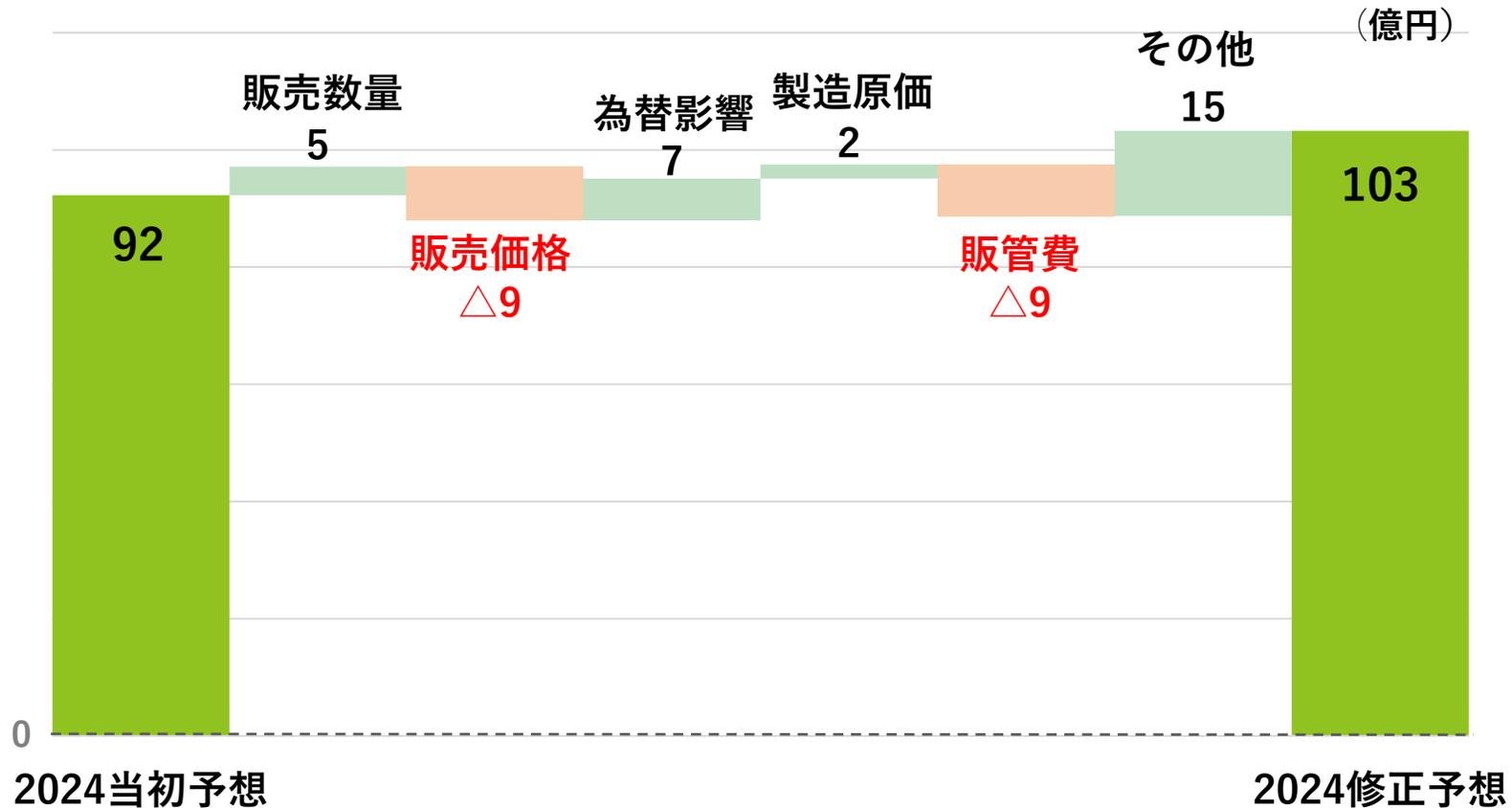


- ◆欧州等での農薬販売が堅調で、期前半の為替円安も利益に寄与。
- ◆ジェネリック品対策の値下げや研究開発費等の増加が利益を圧迫するも、製造コスト改善で一定程度カバーする見通し。



有機化学事業 営業利益増減要因

◆欧州等での農薬販売が引き続き堅調、研究開発費の増加などを吸収する見通し。



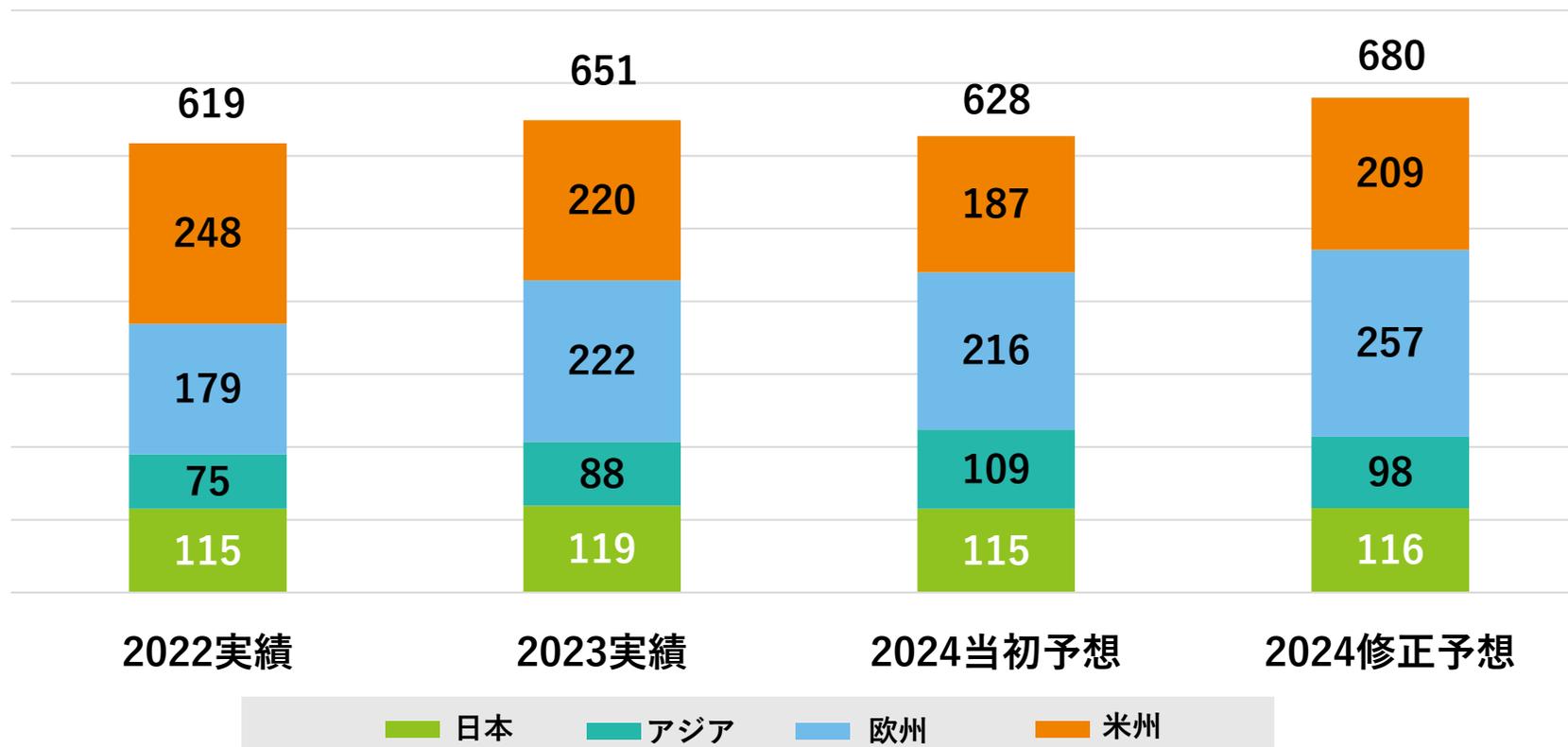
農薬 地域別販売計画



◆欧州では殺菌剤シアゾファミドや殺虫剤フロニカミドなどが堅調に推移する見通し。

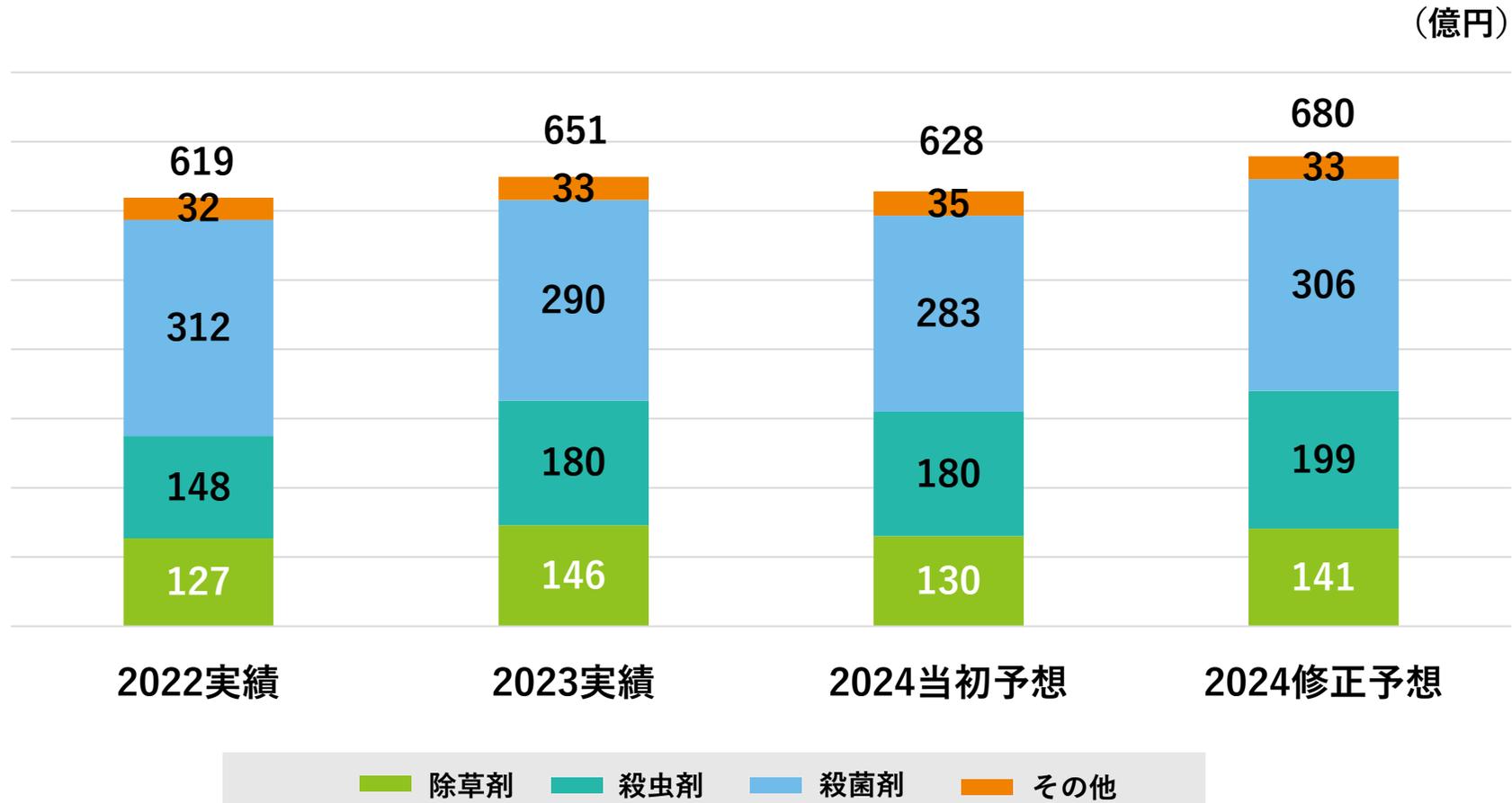
◆米州では除草剤トルピラレートが伸びる。

(億円)



※アジアには大洋州を含む。

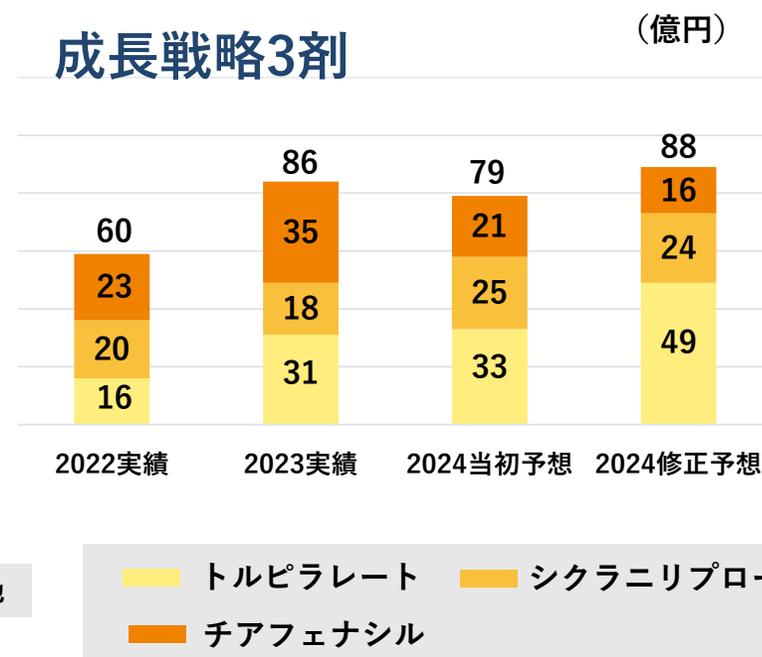
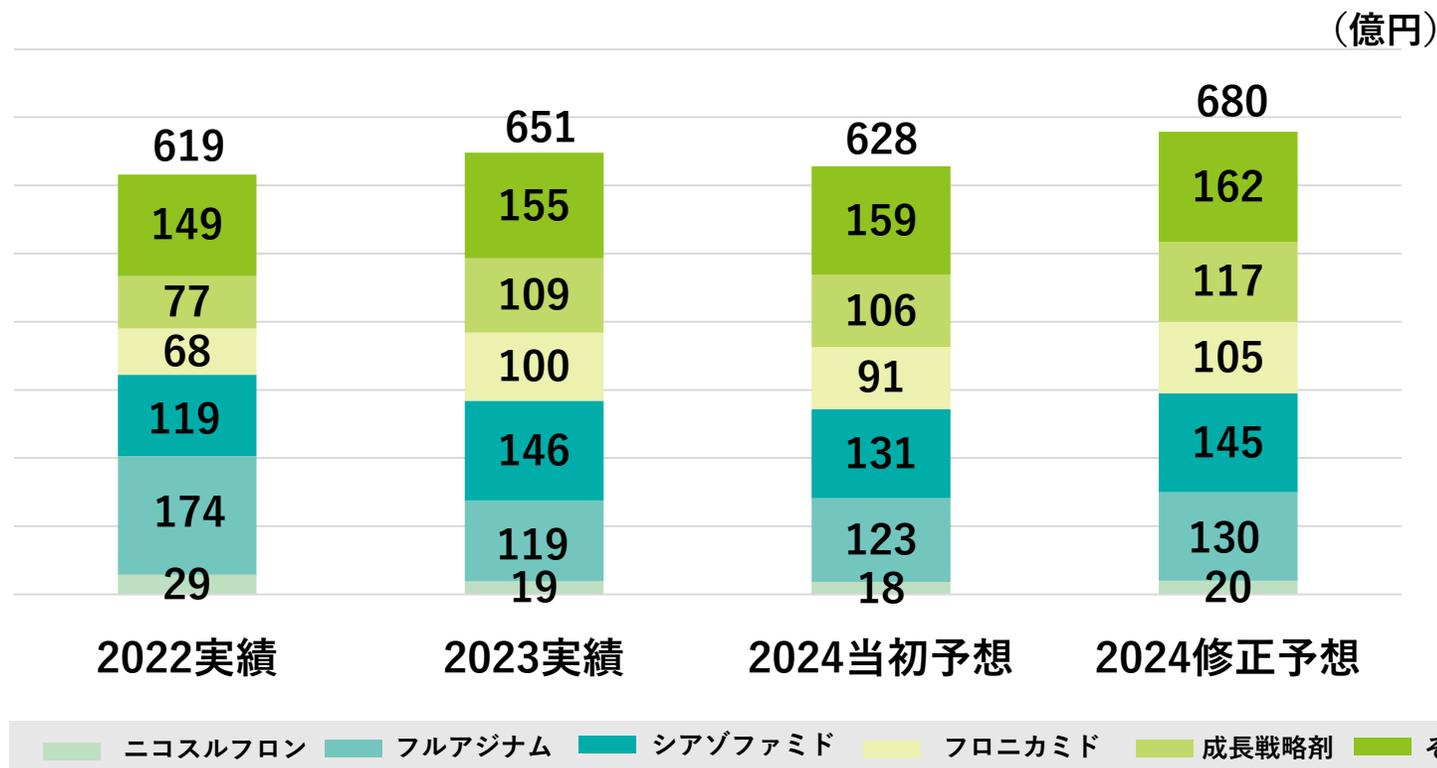
農薬 用途別販売計画



農薬 剤別販売計画

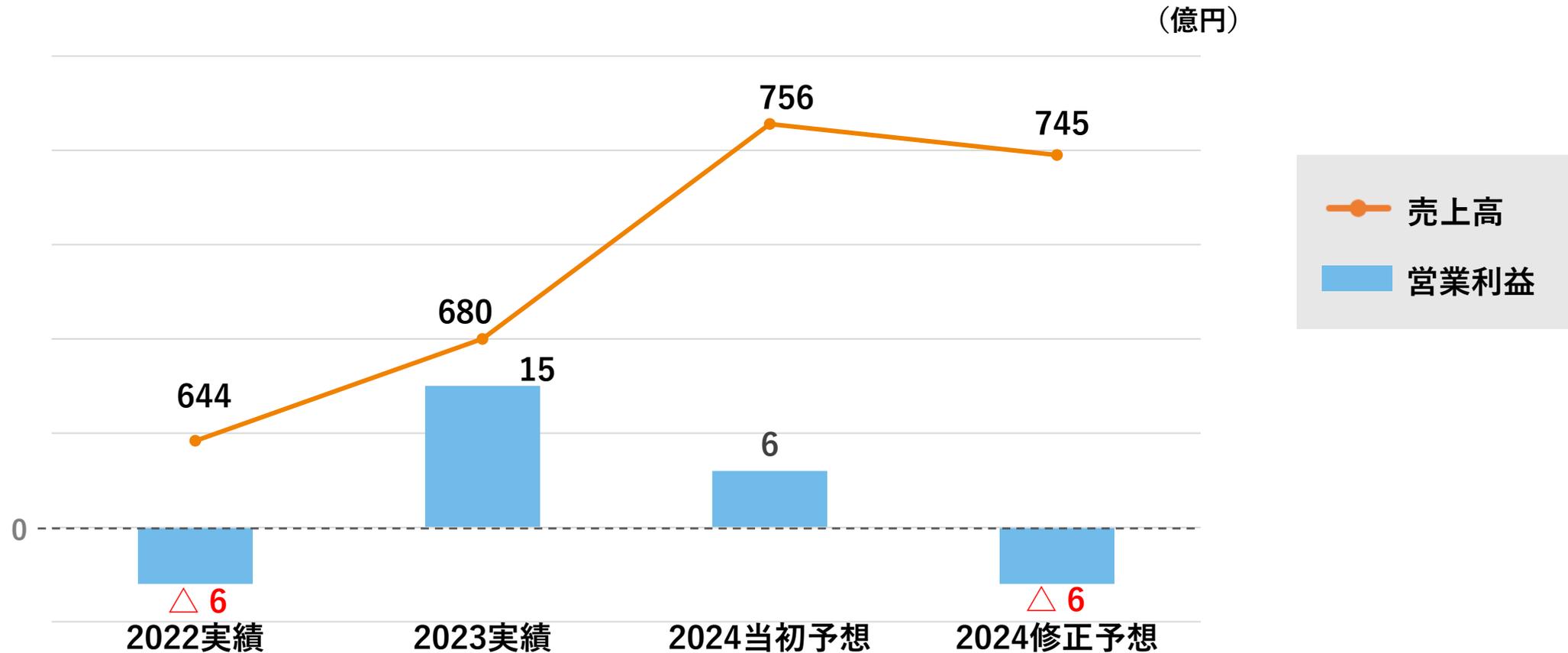


- ◆殺菌剤シアゾファミドや殺虫剤フロニカミドなどが欧州で増収の見通し。
- ◆成長戦略3剤は、米州で除草剤チアフェナシルが減収となるものの、除草剤トルピラレートが当初予想より大きく伸びる見通し。



無機化学事業 業績計画

- ◆機能性材料は電子部品材料の海外向けが好調。
- ◆酸化チタンは国内外で当初の想定以上に市況が低迷し、損益が悪化。

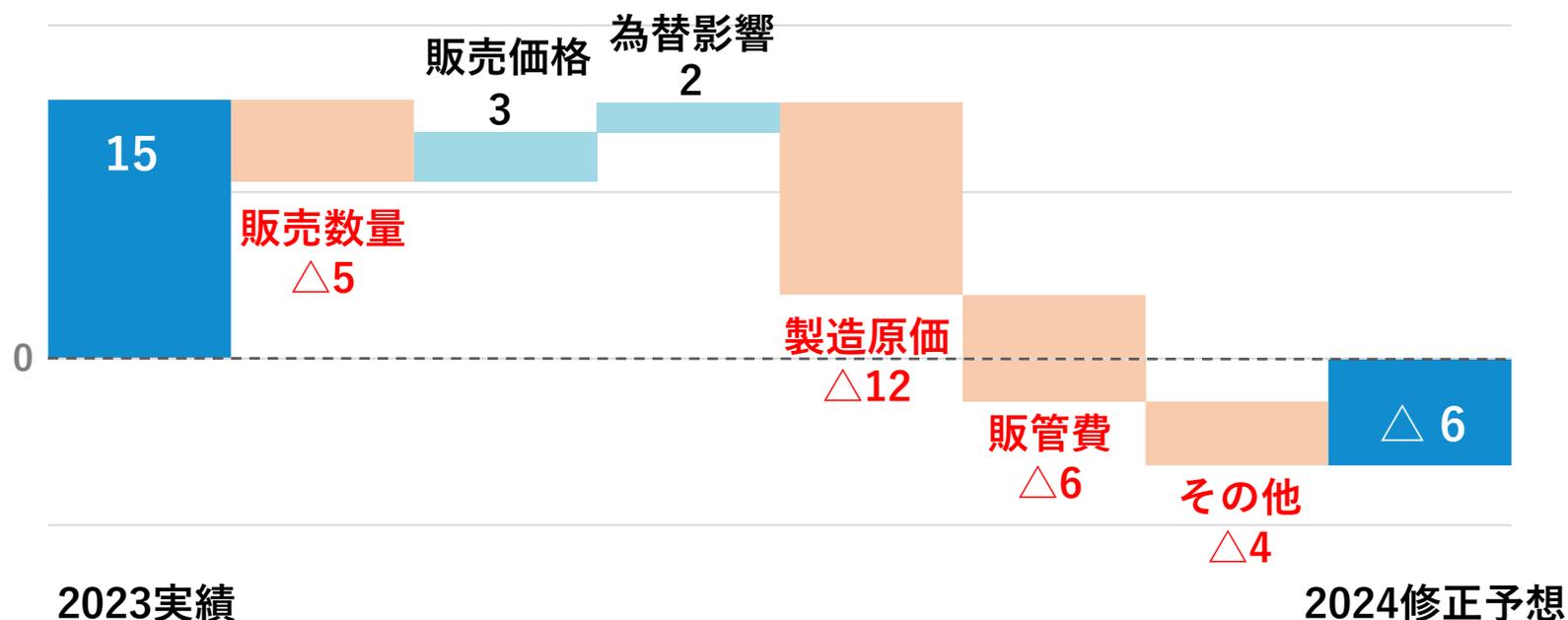


無機化学事業 営業利益増減要因

無機化学事業

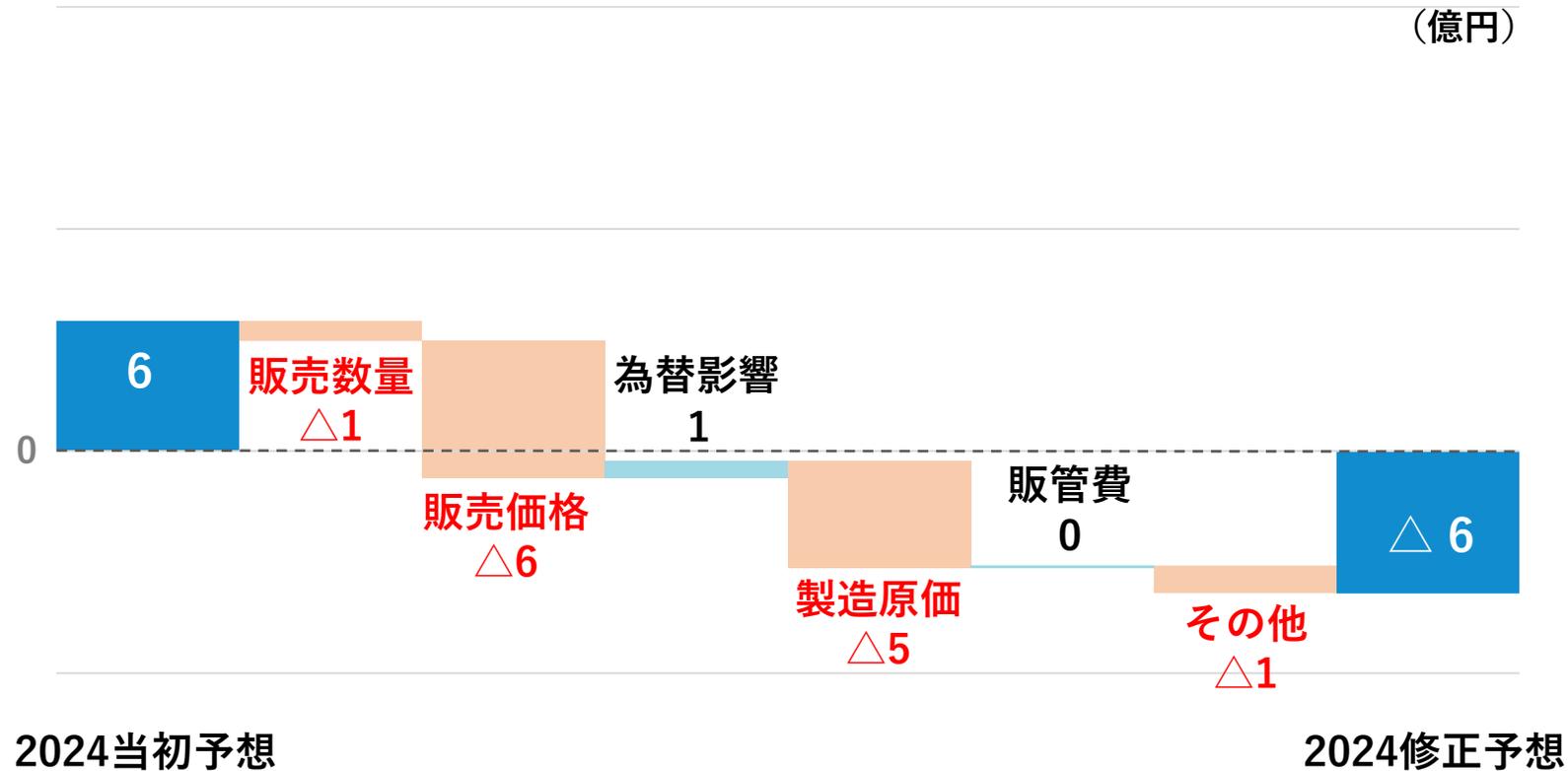
- ◆機能性材料では、電子部品材料の海外向けが好調、国内向けは緩やかに回復する見通し。
- ◆酸化チタンは国内外で市況低迷や安価中国品の流入、工場の稼働率低下により収益が悪化。

(億円)



無機化学事業 営業利益増減要因

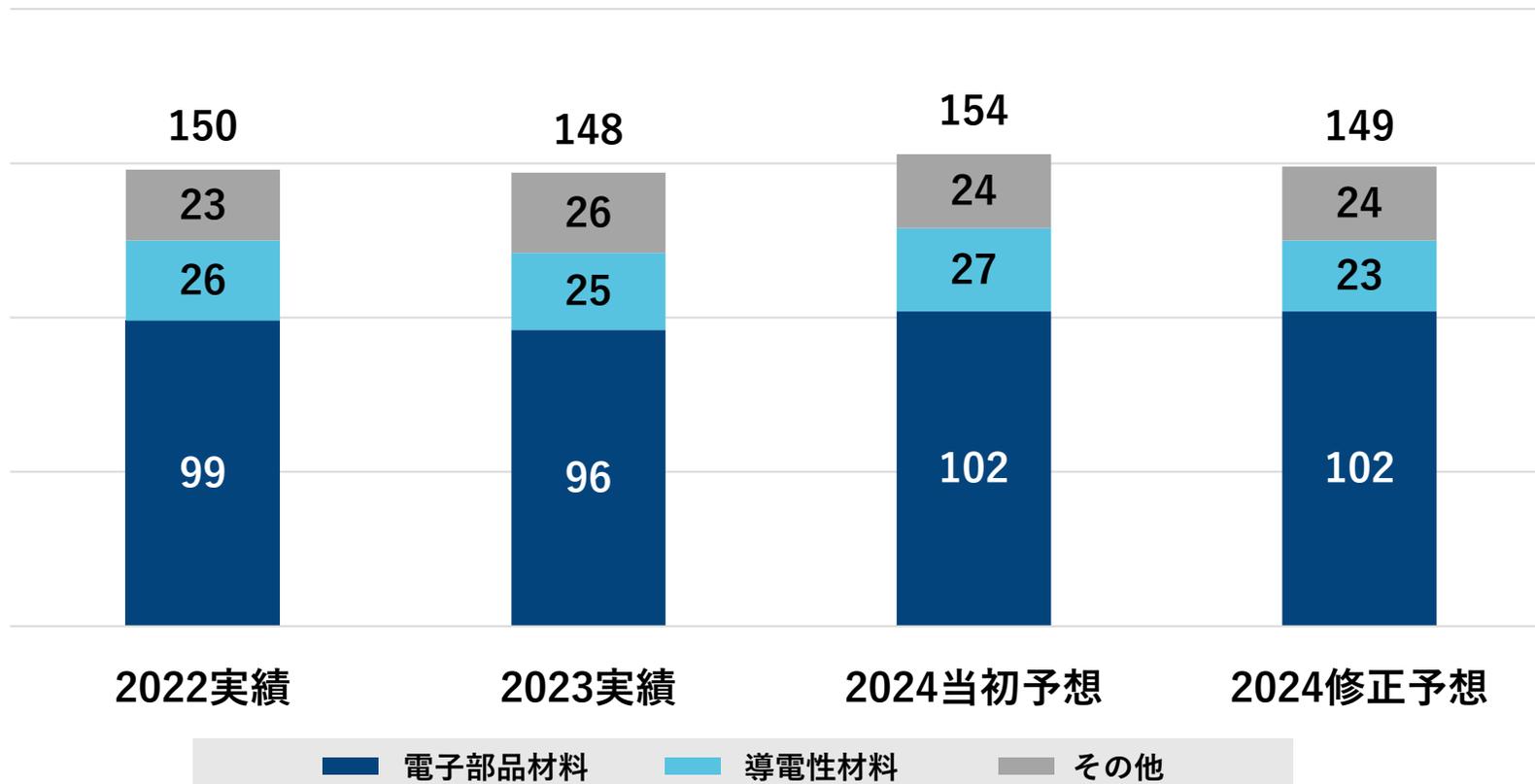
- ◆機能性材料では、電子部品材料の海外向けが好調。
- ◆酸化チタンは国内外で市況低迷継続や安価中国品の流入による販売価格の低下、在庫圧縮のため工場稼働率を引き下げることにより収益が悪化。



機能性材料 材料別販売計画

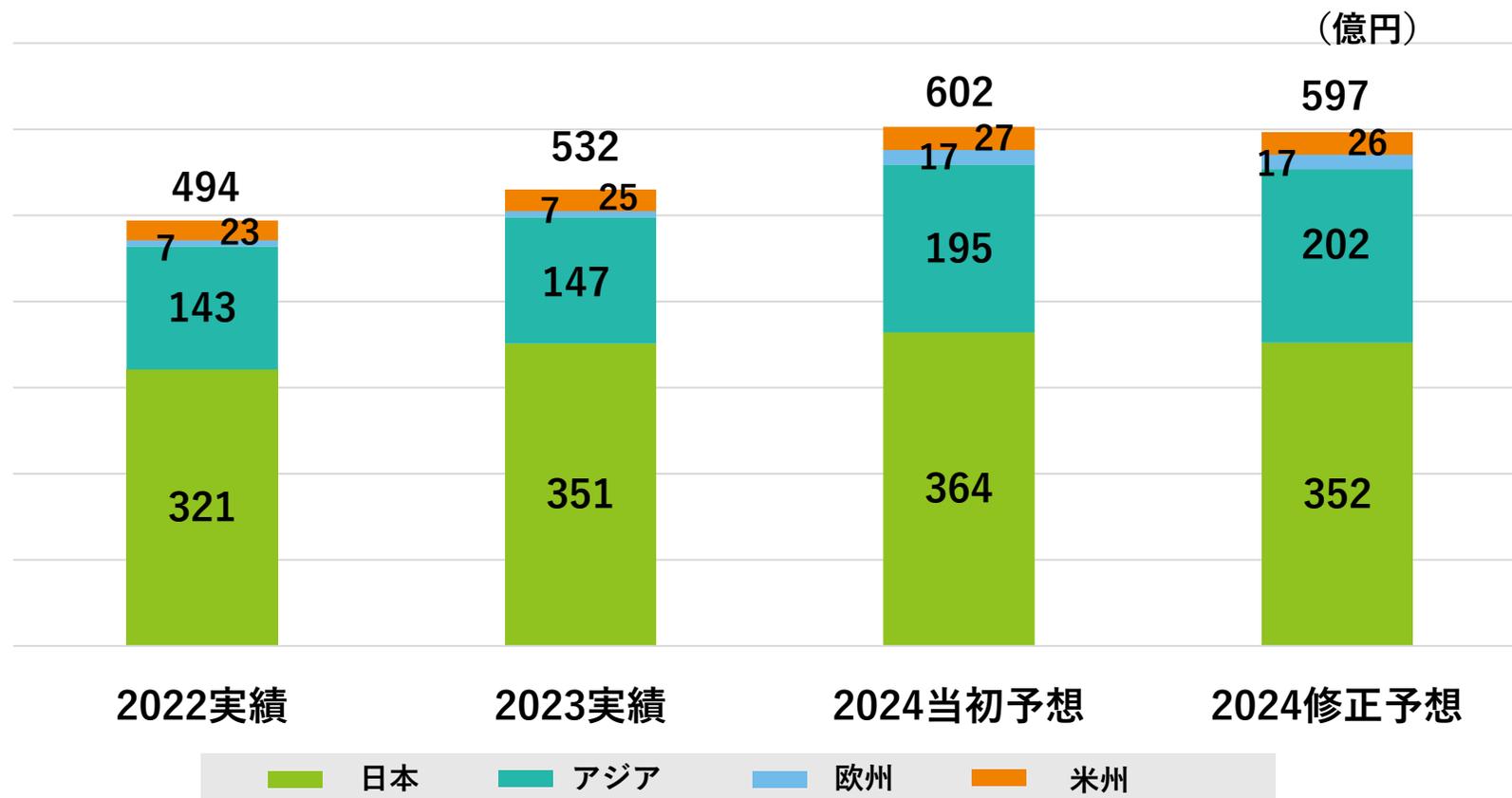
- ◆電子部品材料の海外向けは好調。一方、国内販売は緩やかに回復する見通し。
- ◆導電性材料は、自動車向けが不振。

(億円)



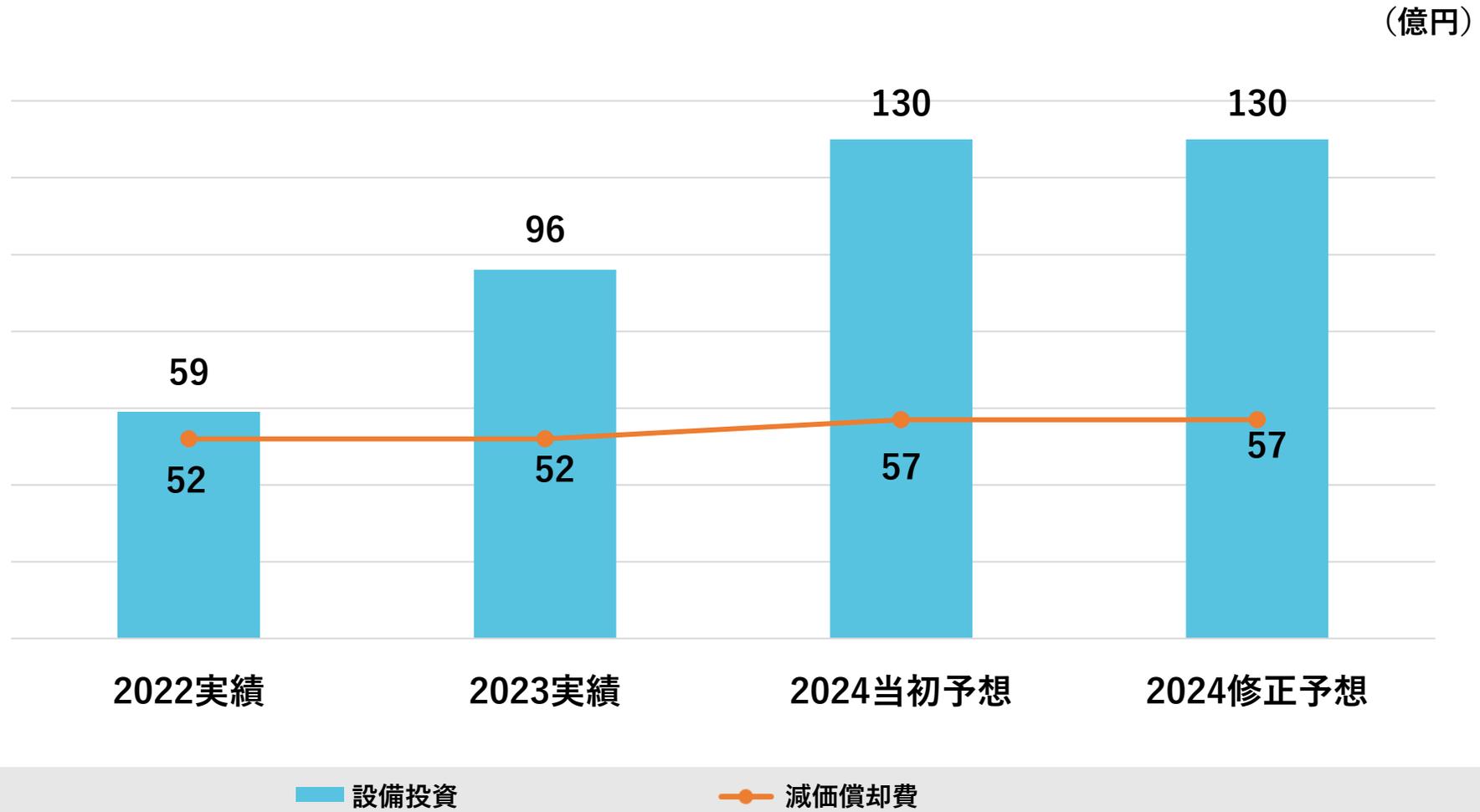
酸化チタン 地域別販売計画

◆国内販売は建築用途向けを中心に需要が低迷。アジア向けは拡販実施などで売上が増加。



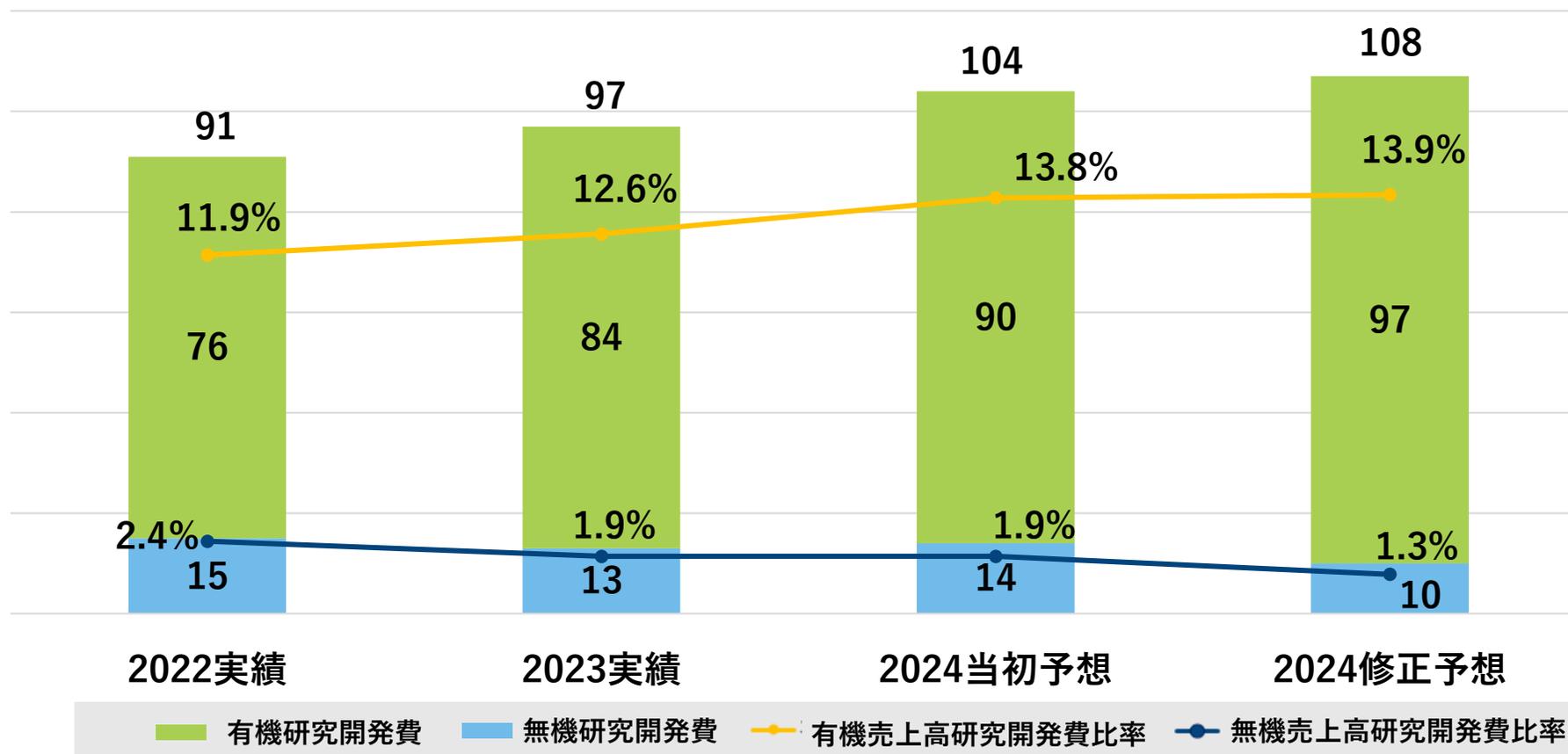
付属資料

設備投資・減価償却費



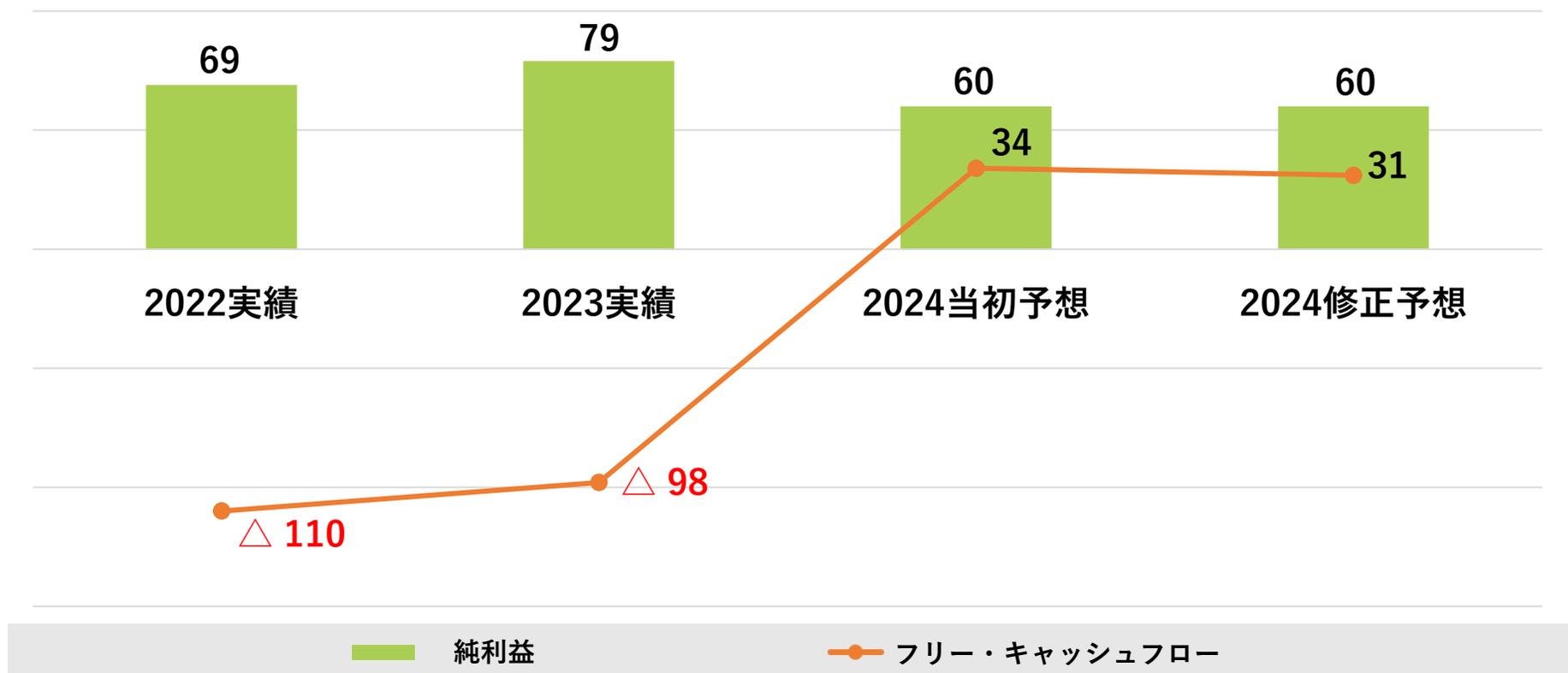
研究開発費

(億円)

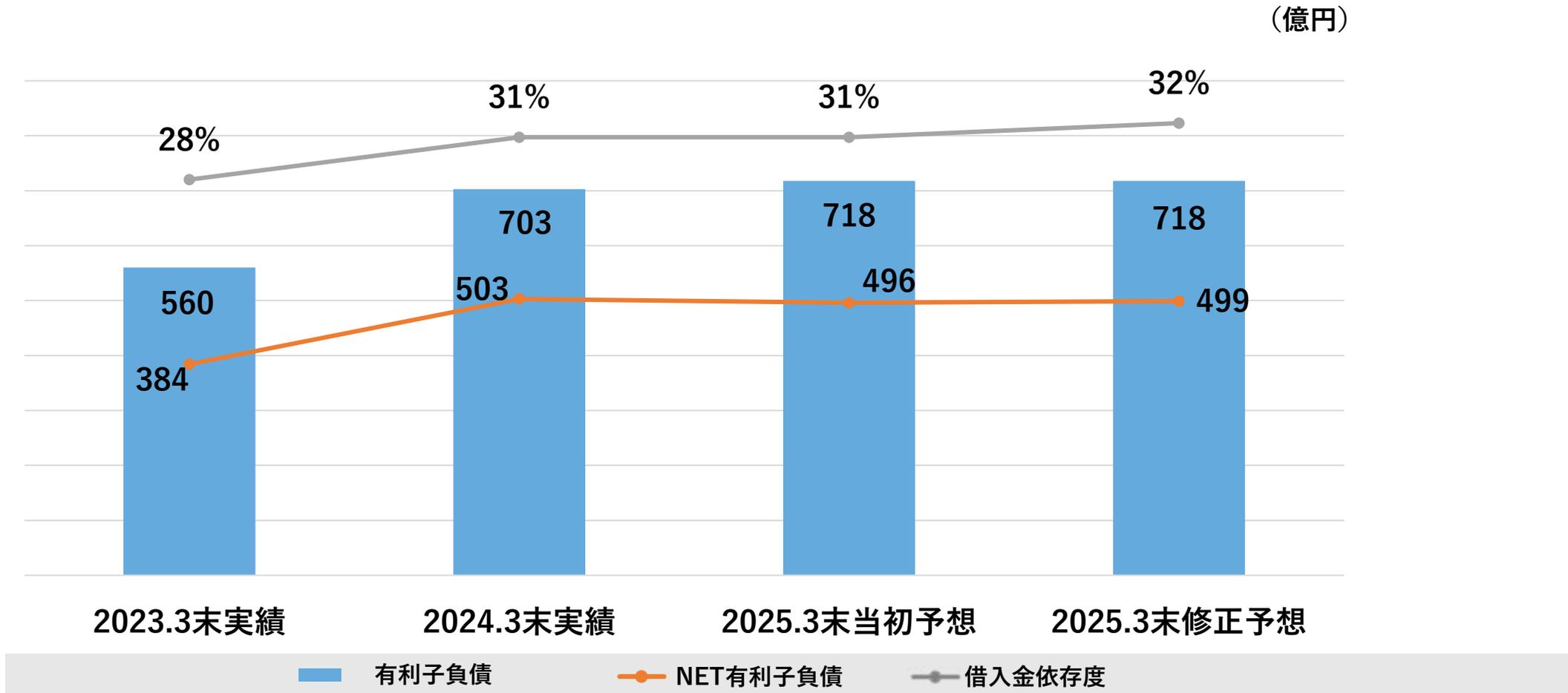


フリー・キャッシュフロー

(億円)



有利子負債残高



完

- ・将来見通しに関わる記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料には、公表時点での将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。日本及び海外の経済情勢・需要動向・競合状況・為替の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があることをご承知おきください。